



堺・まちづくり GPS^{*}

～ 堺市マスタープラン「堺・3つの挑戦」を市民目線から指標化 ～

平成24年5月
堺市 市長公室 企画部

目 次

はじめに	1
堺・まちづくりGPSとは？	1
堺・まちづくりGPSで何がわかるの？	2
堺・まちづくりGPSをどう使うの？	2
資料の見方	3
指標Ⅰ 市民生活の充実度指標	4
“住めばわかる”堺の魅力	11
指標Ⅱ 都市魅力度指標	14
“訪れたくなる”堺の魅力	21
指標Ⅲ 都市の持続可能性指標	24
“未来につながる”堺の魅力	31

はじめに ～市民目線でのまちづくりを進めるために～

平成23年3月、堺市のまちづくりの方向性を示す、堺市マスタープラン「さかい未来・夢コンパス」を策定し、めざすべき堺の将来像として「未来へ飛躍する自由・自治都市～安らぎ・楽しみ・活躍する場として『希まれるまち』へ～」を掲げ、特に重点的に取り組むプロジェクト「堺・3つの挑戦」を中心にまちづくりを進めているところです。

この「3つの挑戦」は、行政だけで実現できるものではありません。市民・企業・行政などが、取り組むべき課題を共有し、協力して未来を切り拓くことが求められます。

今般、この「3つの挑戦」を軸に、市民感覚により近い視点から堺市の現状を、統計データなどを活用し、全国の政令指定都市と比較して、客観的かつ具体的に示すこととしました。

東日本大震災を機に、地域の絆の重要性が再認識されるなか、市民にとっての「住みやすさ」や、「まちの魅力」、「持続可能性」などを、他の都市と比較することで見えてくるものがあるはずです。個々の指標に一喜一憂するものではありませんが、堺の「強み」はさらに伸ばし、「弱み」は克服に向けて、着実に取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、市民の皆さんと大いに議論を重ね、ともに汗をかき、本当に「住んでよかった。活気が出てきた。」と実感できるまちの実現をめざしてまいります。

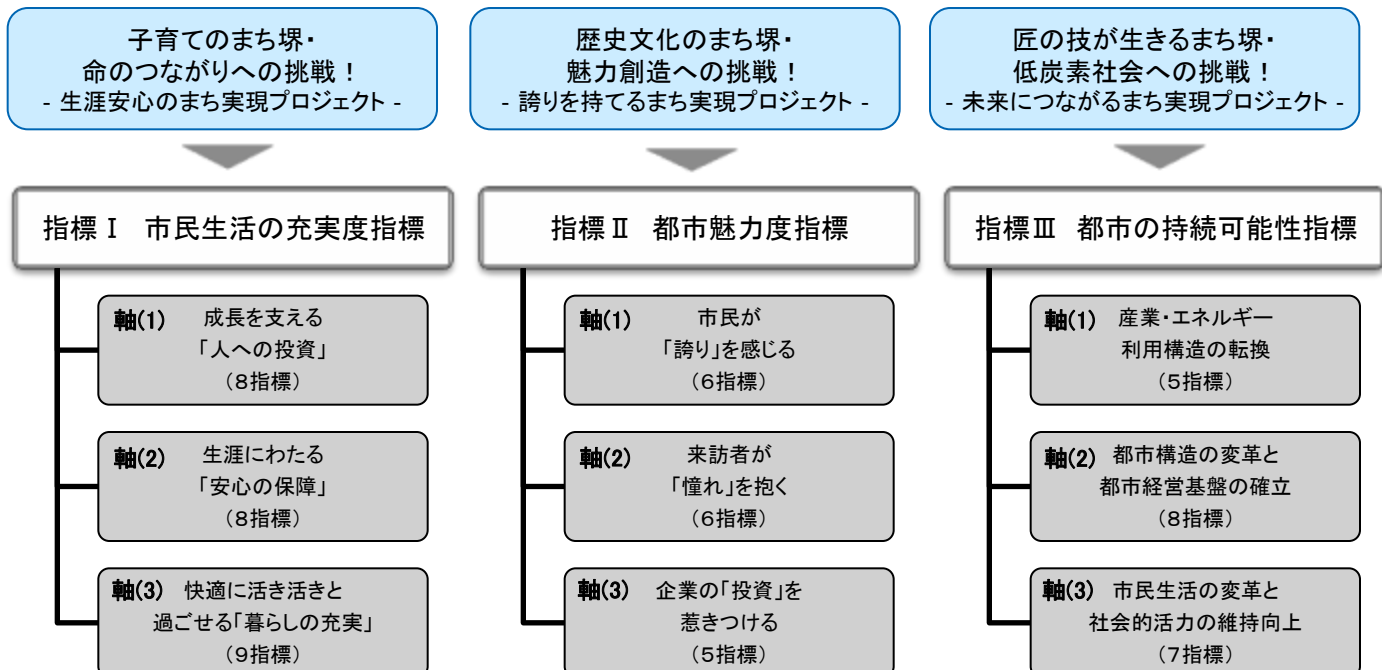


堺市長
竹山 修身

堺・まちづくりGPSとは？ ～「堺・3つの挑戦」を体系的に指標化～

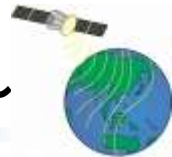


「堺・まちづくりGPS」は、「堺・3つの挑戦」を、まちの状態とそこで活動する市民の意識により指標化したものです。3つの挑戦に対応した「市民生活の充実度」、「都市魅力度」、「都市の持続可能性」の3つの視点から指標を設定しており、それぞれの指標は、軸と細軸により体系化した複数の個別指標によって構成しています。



堺・まちづくりGPSで何がわかるの？

～全国の政令指定都市と比較し、堺の“現在地”を知る～

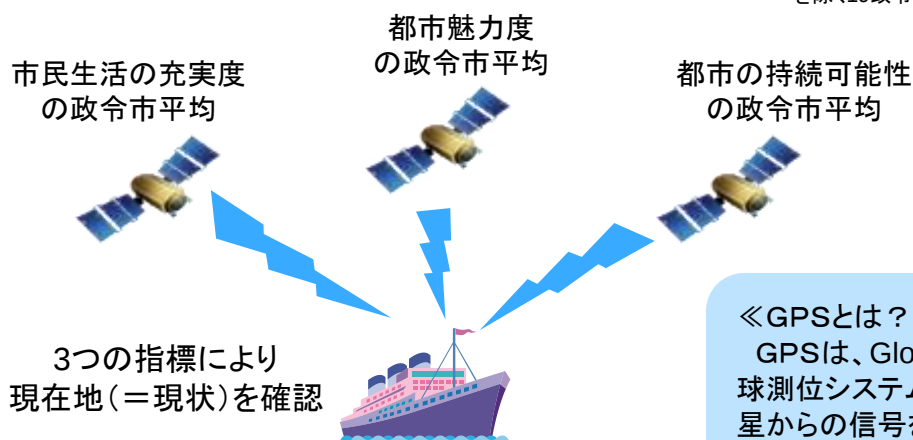


「堺・まちづくりGPS」は、それぞれの指標について、政令指定都市平均※等と比較することで、堺の“現在地”(＝現状)を客観的に示しています。

堺市マスタープランには、堺の進むべき方向性を示し、夢に向かう航海を導く確かな羅針盤となるという意味を込め「さかい未来・夢コンパス」という言葉を冠しました。そしてこのたび、堺が置かれた位置を正確に把握し、目的地までの的確なナビゲーションを行っていくためのツールとして、「堺・まちづくりGPS」を作成しました。

※他の政令指定都市の数値の調査を平成23年度に実施した関係上、この「堺・まちづくりGPS」では、基本的に、熊本市を除く19政令指定都市の平均値となっています。

【堺・まちづくりGPSのイメージ】



《GPSとは？》

GPSは、Global Positioning System(全球測位システム)の略で、上空にある数個の衛星からの信号を地上の受信機で受け取り、受信者が自身の現在地を知るシステム。

堺・まちづくりGPSをどう使うの？

～まちづくりに関わるすべての主体のコミュニケーションツール～

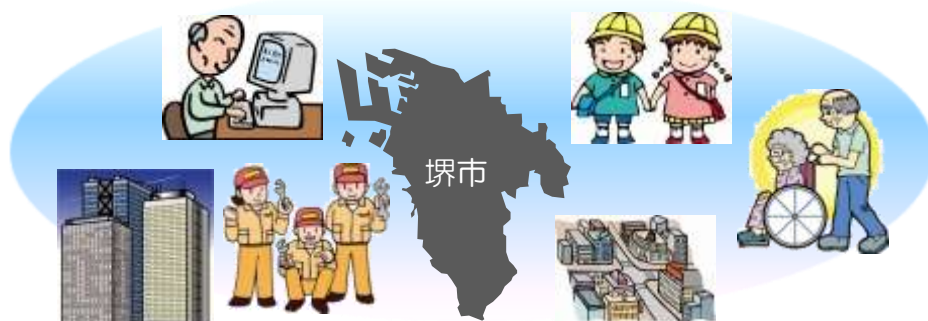
まちづくりは、市民・企業・行政など多様な主体が協働して取り組む必要があります。「堺・まちづくりGPS」は、各主体が同じ視点で堺の「これから」をどうしていくべきかを語り合うための「コミュニケーションツール※」です。

「共通のものさし」で他の都市と比較し、堺の「今の姿」を客観的に表す取り組みは、これまでにない新しい試みです。現状の弱点も含めてまちづくりを担う各主体と共有することで、市政の透明性を高め、市民とともに「協働のまち・堺」を実践することができると考えます。

「堺・まちづくりGPS」を活用し、「めざすべき堺の将来像」に向け、「生涯安心のまち」、「誇りを持てるまち」、「未来につながるまち」を実現させていきましょう。

※コミュニケーションツール…意志や情報を伝達するための道具

未来へ飛躍する自由・自治都市 ～安らぎ・楽しみ・活躍する場として「希まれるまち」へ～



資料の見方

- 3指標それぞれについて、軸(例:成長を支える「人への投資」)、細軸(例:子育て支援が充実しているか)、分析要素(例:1人の女性が生涯に産む子どもの数)に体系化し、その要素を定量的に数値で表せる個別指標を設定
- 軸ごとの総合評価を、視覚的に分かるように「★」の数で表現
- 堺の現状が政令指定都市平均等とどの程度差があるか、レーダーチャート※で視覚的に表現

※レーダーチャート…放射線状に伸びた数値軸上の値を線で結んだ多角形のグラフのことで、クモの巣チャートとも呼ばれる

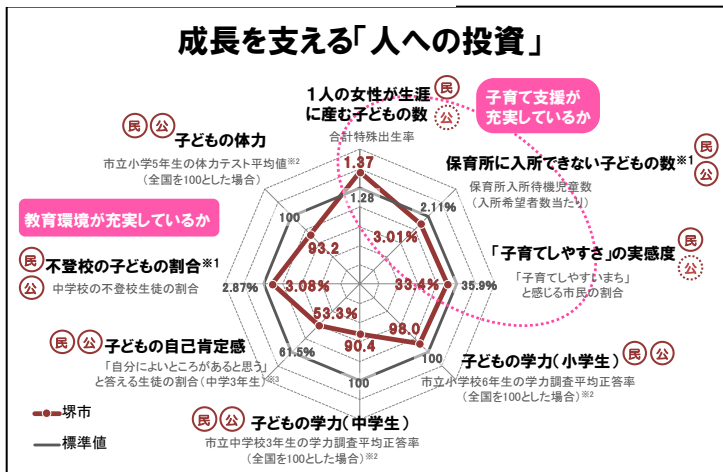
◎ 総合評価の見方

総合評価 ★★★★★

- 軸に含まれる個別指標の偏差値の平均を「★」の数で表現

- ★ 平均偏差値40未満
- ★★ 平均偏差値40以上45未満
- ★★★ 平均偏差値45以上55未満
- ★★★★ 平均偏差値55以上60未満
- ★★★★★ 平均偏差値60以上

◎ レーダーチャートの見方



- 指標ごとに、他の政令指定都市数値等と比較し、堺の現状を偏差値化
- 軸ごとに、個別指標の偏差値をレーダーチャートで表現
- 偏差値50のラインを標準値として示し、堺の現状が標準値からどの程度差があるかを視覚的に表現
- 外に行くほど良好な数値を表す。めざす方向が「★」となっている指標は、外に行くほど数値が低いことを表す。
- 指標の高低に関与できる主体を、以下のマークで表示(点線は間接的に関与する主体)

民…市民 産…産業界 公…行政

“偏差値の留意点”

偏差値は、ある値が集団の中でどのくらいの位置にいるかを表したものの。数値の分布が平均値付近に集中する場合に多く用いられます。今回のように標準数が19都市と少なく、数値にばらつきがある場合は、あくまで参考値と捉えることが必要です。

◎ 指標と現状値の表の見方

細軸	分析要素	指標	現状値	時点	単位当たりの数値	近年の傾向	めざす方向	標準値
子育て支援が充実しているか	1人の女性が生涯に産む子どもの数	1 合計特殊出生率	1.37	平成21年	—	(参考) ↑ 平成22年:1.43	↑	1.28 政令市平均
	保育所に入所できない子どもの数	2 保育所入所待機児童数	431 人	平成23年4月1日	入所希望者数当たり 3.01 %	—	☆	入所希望者数当たり 2.11 % 政令市平均
	「子育てしやすいまち」の実感度	3 「子育てしやすいまち」と感じる市民の割合	33.4 %	平成23年12月	—	—	↑	35.9 % 政令市平均

- ・現状値:堺市の現状の数値
- ・時点:堺市の現状値を測った時点
- ・単位当たりの数値:都市の規模の差などで単純に数値を比較することがふさわしくない場合、人口など基準となる数値で現状値を割った値
- ・近年の傾向:指標が近年の推移・傾向を矢印で表現
(※「—」は傾向が把握できていないもの、もしくは傾向が流動的で一概には言えないもの)
現状値の時点以降で堺市の最新値が把握できている場合は、参考値として記載
(※ただし、この参考値は政令指定都市の平均値等との比較はできない)
- ・めざす方向:現状値を上げをめざすのか、下げをめざすのかを矢印で表現
- ・標準値:政令指定都市の平均値など、比較対象となる値